

●献上茶謹製事業式典

皇室献上に先立ち、4月27日(土)、町内各地にて式典が執り行われました。

早朝、指定園主のひとり坂本政司さん(久野脇)の茶園にて行われたのは謹製茶摘み式典。実行委員と茶娘によって摘まれた茶葉は、神前へと捧げられ、順調に生育したことへの感謝と無事献上茶が仕上がるよう祈りが捧げられました。

その後、山村開発センターでは献上茶謹製記念式典が執り行われました。鈴木町長から「令和最初の献上を行えることは光栄。新しい時代においても基幹産業として茶業を発展させたい」との挨拶。このほか、指定園主からの献上茶葉継承及び指定園主への感謝状の贈呈などが行われました。

記念式典の後には、同会場にて謹製手揉み式が執り行われました。静岡県茶手揉保存会からは、この日のために選抜された揉み手が集い、平柳会長の号令に合わせて一斉に手揉みが行われ、川根地域に伝わる「川根揉切流」など、熟練された技による丹念な仕上げ作業が行われました。

揉み手のひとりである棚森さん(崎平)は、「本川根の献上茶のときに参

加したが、このような機会はないと思っていた。また献上茶を作ることができるのは大変な名誉だと思う。」と話したほか、同じく揉み手の小長谷さん(掛川市)は「とても良い香りをする茶葉で素晴らしいお茶ができたと思う。良い経験と勉強になった」と話しました。

今回、謹製された献上茶は、5月28日(火)に皇居へ届けられ、皇族の方々へと献上されました。



今回の指定農家からの想い

今回は県の強い奨めで定植した「さえみどり」を献上させていただきました。名前のとおり冴えた鮮やかなグリーンの水色と、上品な香り、渋味が少なく旨みが多い川根のお茶を味わっていただけたと思います。

このたび、第61回献上茶指定園主に選ばれ、大変光栄なことと感じております。この茶園は前回の平成16年度にも献上させていただいたところであり、その後引退した父に代わり引き継いで参りました。

今回は「香駿」を献上茶とさせていただきます。日当たりが良く若い木を植えた畑での育成となりましたので、特長となる清涼感のある香りを持った良質な茶葉が「川根のお茶らしさ」をお伝えできると思います。



藤川「石山貴美夫」



久野脇「山下誠」



久野脇「坂本政司」

新しく即位された天皇陛下のもと、日本の新時代の幕開けとなる令和元年のめでたい国民祝賀の年に、茶業界初の献上茶奉納という、たいへんな名誉を賜りました。

私は新天皇の徳仁殿下とは同い年となるため、即位の年にそのような茶園から採れたお茶を差し上げることができるのとはとても感慨深いものがあります。

この度の献上茶謹製事業の指定茶園に選定いただいたことは、まことに光栄なことと感じております。

令和元年 第61回 祝 川根本町献上茶謹製事業記念式典

